

現代日本語「いいえ」の意味分析

渡邊 真

キーワード 「いいえ」、感動詞、応答詞、意味分析、メタファー

1. はじめに

現代日本語の「いいえ」は、複数の意味を有する応答表現だと考えられる。

- (1) 「雨、まだ降ってます？」麻子は看護婦に訊いた。「いいえ」にこりともせず、うすピンクの制服を着た看護婦はこたえた。¹
(江國香織『思いわずらうことなく愉しく生きよ』光文社)²
- (2) 「いまにわかるだろう」加藤はひとりごとをいった。「なにがいまにわかるのだ」「いいえ、なんでもありません」³
(新田次郎『孤高の人』新潮100)
- (3) 「ごめんなさいね、突然」「いいえ」
(唯川恵『瑠璃でもなく、玻璃でもなく』集英社文庫)

(1)の「いいえ」は、相手の「雨、まだ降ってます？」という、肯定、否定の2つの選択肢がある質問の内容（そのもの）に対して「雨は降っていない」という否定判断を示した応答である。また、(1)で「いいえ」ではなく「はい」と言った場合には、「雨がまだ降っている」という肯定判断を示していると捉えられる。しかし、(2)の「なにがいまにわかるのだ」という相手の質問は、肯定、否定という2つの選択肢を有してはいない。すなわち、(2)の「いいえ」は、(1)の「いいえ」のように、相手の質問の内容（そのもの）に対して否定判断を示した応答だとは捉えられない。さらに、(3)の「いいえ」も、「ごめんなさいね、突然」という相手の発話の内容（そのもの）に対して「ごめんなさいではない」というように否定判断を示した応答だとは捉えられない。また、(3)で「いいえ」ではなく「はい」という表現が用いられることは、ないのではないと思われる。

このように、「いいえ」の実例を観察すると、「いいえ」は、相手の発話の内容（そのもの）に対して否定判断を示す意味だけではなく、複数の意味を有する応答表現だと考えられる。

本稿は、現代日本語の「いいえ」を多義性のある表現として捉え、「いいえ」が、相手の発話の何に対する応答なのかという観点で分析をおこない、6つの意味を記述し、共時的に意味の相互関係を考察したものである。

以下、本稿の構成について簡単に述べる。

2節では、先行研究の検討と本稿の目的を提示する。3節では、意味記述と分析の方法を述べる。4節では、「いいえ」の6つの意味と、意味の相互関係の分析を提示する。5節では、「いいえ」の6つの意味記述を再掲し、意味の相互関係を図示する。6節では、簡単に本稿のまとめを述べる。

2. 先行研究の検討と本稿の目的

本節では、先行研究の検討を踏まえ、本稿の目的を示す。

従来、現代日本語の「いいえ」は、感動詞の下位分類である応答詞として、様々なアプローチによって研究がなされてきた。主な研究としては、奥津(1989)、田窪・金水(1997)、富樫(2006)、仁田(2009)があげられる。ただし、奥津(1989)、田窪・金水(1997)、仁田(2009)では、「いえ」と「いや」と共に「いいえ」を扱い、相手の発話に対する否定的応答として記述がなされており、前節で取り挙げた(2)と(3)のような「いいえ」について、相手の発話の何に対する応答なのかという観点からの明確な記述はなされていない。また、富樫(2006)では、「いいえ」と「いえ」と「いや」の違いを明確にする中で「いいえ」の観察がなされているが、前節で取り挙げた(2)のような用法については、容認度が低いとされ、「いいえ」について「情報そのものにたいして否定することができる（情報提示行為に対する否定には用いることができない）」（富樫 2006:35）と記述されている。

また、現行の国語辞典『大辞林』（第三版）と『新明解国語辞典』（第七版）では、以下のように記述されている。

問いかけや誘いかけに対して答えが否定的であることを示す語。そうではない。いや。『中村さんのお宅ですか』『いいえ、ちがいます』（『大辞林』第三版）

相手が問いかけた事柄について打ち消すことを表す。「お好きですか？いいえ、嫌いです／つまらなくなかった？いいえ、そんなことは有りません」

◀➡ はい 文法 「君は昨日は会社にこなかったか」と否定の形式の問いか

けを受けた際に、聞き手が「来なかった」ことを予測した上での問いかけととらえれば「はい、来ませんでした」となる。また、聞き手が「来たこと」を予測した上での問いかけだととらえれば「いいえ、来ました」となる。(『新明解国語辞典』第七版)

上記のように、『大辞林』(第三版)と『新明解国語辞典』(第七版)でも、前節で取り挙げた(2)と(3)のような実例について明確な説明ができるような記述は見当たらない。さらに、『新明解国語辞典』(第七版)では、「はい」が「いいえ」に対立する表現だとされているが、前節で実例を観察した通り、「いいえ」が用いられる場面で「はい」が必ず対立するわけではない。

このように、先行研究では「いいえ」について精緻な記述がなされていないことから、再考察する余地があると考えた。さらに、「いいえ」の複数の意味の相互関係について考察した研究は、管見の限り見られない。

本稿では、現代日本語の「いいえ」を、国広(1982:97)の「多義語」(polysemic word)とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」という定義に倣い、多義性のある表現として捉える。そして、収集した実例を分析し、複数の意味の精緻な記述を目指す。さらに、多義語分析の課題として、初山(2001:32)が提案している4つの課題の中の「(それぞれ確立した)複数の意味の認定」、「複数の意味の相互関係の明示」、という2つの課題に取り組む。⁴

3. 意味記述と分析の方法

本節では、記述と分析の方法を提示する。

本稿における、それぞれ確立した「いいえ」の複数の意味、すなわち多義的別義の認定に関しては、まず、初山(1993:47)の「ここで、ある語に対して、M1,M2,M3……という複数の多義的別義を認める認定基準として提案するものは、M1,M2,M3……は、それぞれ関連語(非両立関係にある同位語、反義語、反対語、類義語、上位語)が異なり、さらには属する意味分野が異なる時、M1,M2,M3……を多義的別義と認定するという基準である」を参考に、「いいえ」が用いられる場面で「はい」が対立する場合と対立しない場合があることに注目し、手掛かりとした。

また、複数の意味の相互関係の考察には、1節で取り挙げた(1)の「いいえ」が示す否定判断を暫定的に基本的な意味とし、メタファーを援用した。

本稿で暫定的に基本的な意味とした(1)の「いいえ」は、相手の「雨、まだ降ってます？」という、肯定、否定の2つの選択肢がある質問の内容（そのもの）に対する応答である。(1)で「いいえ」ではなく「はい」と言った場合には、「雨がまだ降っている」という肯定判断を示していると捉えられることから、(1)の「いいえ」は、相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容（そのもの）に対して、肯定ではなく否定の選択肢を選択したのだという、否定判断を示したものだと言える。このように、(1)の「いいえ」が否定判断を示すものであり、相手の発話の内容（そのもの）に対して、否定に対立する肯定という選択肢と検討、判断の後に示される応答だという点に注目すると、他の意味と類似性が見出せることから、メタファーを援用した。

ここで、実際に例を見てみよう。この例は、「いいえ」の多義的別義2として認定した意味の典型例である。

(4) 「ええ……矢野さんも飲まれる？」「いいえ、結構です」

(唯川恵『瑠璃でもなく、玻璃でもなく』集英社文庫)

(4)の「いいえ」は、相手の「矢野さんも飲まれる？」という、パーティー会場での好意的な行為の申し出に対する応答である。(4)で「はい」と言った場合には、相手がワインをとってくると考えられることから、(4)の「いいえ」は、申し出に対する断りを示していると考えられる。したがって、(4)の「いいえ」は、断りを示すものではあるが、相手の発話の内容（そのもの）に対して、断りに対立する受け入れるという選択肢と検討、判断の後に示される応答だという点で(1)の「いいえ」と類似性が見出せる。

このように、「いいえ」の複数の意味の相互関係の考察にはメタファーが有用性を見せる。

メタファーの定義は、初山(2010:42)の「2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、本来は一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩」という定義に従う。

以上、本稿における記述と分析の方法を述べた。

4. 分析

本節では、現代日本語「いいえ」の6つの多義的別義の記述と意味の相互関係の分析を提示する。⁵なお、本稿では、考察対象である「いいえ」の発話者

が、相手の発話を聞いて主体的に何らかの判断をして「いいえ」と発話していると捉えていることから、「いいえ」の発話者を一貫して「主体」としている。

4.1 多義的別義1：〈相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉⁶

- (5) 「雨、まだ降ってます？」麻子は看護婦に訊いた。「いいえ」にこりともせず、うすピンクの制服を着た看護婦はこたえた。 (= (1))

(5)の場面は、病室である。入院患者である麻子は看護婦である主体に、質問している。相手の質問は「雨、まだ降ってます？」である。これは、主体に対して、雨がまだ降っているか否かを問うている質問だと捉えられる。それに対して主体は「いいえ」と言っている。ここで主体が、雨がまだ降っているという肯定判断を示す場合には「いいえ」ではなく「はい」と言うと思われる。したがって、(5)の「いいえ」は、相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容に対して、肯定ではなく否定の選択肢を選択したのだという、否定判断を示したものだと言える。

このような分析から、「いいえ」の別義1として〈相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉と記述した。

なお、本稿では、暫定的に別義1を基本的な意味と考える。

4.2 多義的別義2：〈相手の好意的な行為の申し出（の発話の内容）に対して〉〈断りを〉〈示す〉

- (6) 「ワイン、もう一杯頼む」朔也がワインを飲み干し、空になったグラスを差し出した。その言葉には、どこか強引なニュアンスが含まれていて、英利子は朔也を見上げた。「ええ……矢野さんも飲まれる？」「いいえ、結構です」英利子は再び、バーカウンターに向かった。

(唯川恵『瑠璃でもなく、玻璃でもなく』集英社文庫)

(6)の場面は、立食パーティーの会場である。朔也の妻である英利子は、ワインを飲みほした夫からバーカウンターへ行くように言われ、「ええ」と返事をし、続けて、夫の部下である主体に「矢野さんも飲まれる？」と言っている。「矢野さんも飲まれる？」は、肯定、否定という2つの選択肢がある質問だと捉えられる。ただし、ここで主体が「はい」と言った場合には、英利子は、夫のワインだけではなく、主体のワインをもバーカウンターで受け取り、戻って来ると考えられる。したがって、「矢野さんも飲まれる？」という相手の発話は、主体

に対して、単にワインを飲むか否かを確認している質問ではなく、主体に向けられた好意的な行為の申し出だと捉えられる。

すなわち、(6)の「いいえ」は、主体が、相手の好意的な行為の申し出（の発話の内容）を把握はしたが、（主体にとっては）それが必要な申し出ではなかったことから、それを受け入れてワインを取りに行ってもらうつもりはないという意思である断りを示したものだと言える。

このような分析から、「いいえ」の別義2として〈相手の好意的な行為の申し出（の発話の内容）に対して〉〈断りを〉〈示す〉と記述した。

別義2は、相手の発話の内容に対する応答である点で、別義1と類似性が見出せる。さらに、主体が、「はい」という表現で、相手の好意的な行為の申し出（の発話の内容）を受け入れる意思を示す可能性があることから、別義2の一部である、受け入れるつもりはないという意味である〈断り〉は、対立する選択肢と検討、判断の後に示される意味だという点で、別義1の一部である〈否定判断〉と類似性が見出せる。

このような考察から、別義2は別義1からメタファーを基盤に拡張したものと考えられる。

4.3 多義的別義3：〈相手の考え（を表す発話の内容）に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉

- (7) 「知らずにいれば関係のない事だ。そういう者があったからって、お前に対する気持は少しも変りはしない」彼は自分のいう事が勝手である事は分っていた。然し既にその女を愛している自身としては妻に対する愛情に変化のない事を喜ぶより仕方がなかった。「そんなわけではない。そんなわけは決してありません。今まで一つだったものが二つに分れるんですもの。そっちへ行く気だけが、減るわけです」「気持の上の事は数学とは別だ」「いいえ、そんな筈、ないと思う。」妻はヒステリックになり、彼の手の甲をピシリピシリ打った。

（志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』新潮100）

(7)は、夫婦の会話である。妻以外に愛する女性ができたと妻に知られた夫は、それでも、妻に対する気持ちは変わらないのだということを（主体である）妻に話している。それを聞いた主体は、「そんなわけではない。そんなわけは決してありません。今まで一つだったものが二つに分れるんですもの。そっちへ行く気だけが、減るわけです」と言っている。それを聞いた（相手である）夫は、「気持の上の事は数学とは別だ」と言っている。それに対して主体は「い

いえ」と言い、続けて「そんな筈、ないと思う」と言っている。

(7)の「気持の上の事は数学とは別だ」という相手の発話は、相手の考えを述べたものだと捉えられる。ここで主体が、相手の考えが妥当なものと判断した場合には、「いいえ」ではなく、「はい」と言うと思われる。すなわち、(7)の「いいえ」は、主体が相手の考え（を表す発話の内容）に対して、妥当なものではないという否定判断を示したものだと考えられる。

このような分析から、「いいえ」の別義3として〈相手の考え（を表す発話の内容）に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉と記述した。

別義3は、相手の発話の内容に対する応答である点で、別義1、別義2と類似性が見出せる。さらに、〈否定判断〉を示すという点で、別義1と類似性が見出せる。別義3の一部である〈否定判断〉は、主体が相手の考えを表す発話の内容が妥当なものであるか否かを検討し、妥当なものではないという否定判断を示したものである。一方で、別義1の一部である〈否定判断〉は、主体が、相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容を検討し、肯定ではなく否定の選択肢を選択したという否定判断を示したものである。このように、別義3と別義1は、主体が検討する対象が相手の考えを表す発話の内容であるか、相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容であるかという点では異なるが、それぞれの内容に対して、主体が検討し、否定判断をおこなうという点で類似性が見出せる。したがって、別義3は、別義1からメタファーを基盤に拡張したと考えられる。

4.4 多義的別義4：〈相手の質問が前提としている考え（の内容）に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉

- (8) 家に戻って淑子に、会社取材に来たのが洋子だったので、食事をしてきたと説明した。(略)「離婚の相手はどんな人だったんだろうね」「いいえ、知りませんわ」「とにかく、自分の労苦を外に見せていない人だね」
(坂上 弘『近くて遠い旅』中央公論新社：中納言)

(8)は、夫婦が、共通の知人である洋子について話している場面である。その中で、夫である相手は、「離婚の相手はどんな人だったんだろうね」と、妻である淑子に言っている。それに対して、主体である淑子は、「いいえ」と言い、続けて「知りませんわ」と言っている。

(8)の「離婚の相手はどんな人だったんだろうね」という相手の発話は肯定、否定という2つの選択肢を持たない質問であることから、その内容に対して肯定、否定では答えることはできず、答えとしては、「わからない」や「歳の離れ

た人だったそうよ」などが考えられる。すなわち、(8)の「いいえ」は質問の内容そのものに対して否定判断を示しているものだとは考えられない。そこで考えられる観点は、主体が「離婚の相手はどんな人だったんだろうね」という質問から、この質問の前提となる相手の考えを捉えているのではないか、という点である。

(8)の「離婚の相手はどんな人だったんだろうね」という主体に対する質問は、「主体が（話題に上っている離婚歴のある洋子の）離婚の相手がどんな人だったのかを知っているだろう」という相手の考えを前提として発せられたものとして捉えることができる。主体が、このような前提を捉えていると考えれば、(8)の「いいえ」は「（話題に上っている離婚歴のある洋子の）離婚の相手がどんな人だったのかを知っているだろうという（あなたの）考えは妥当ではない」ということを示していると捉えられる。したがって、(8)の「いいえ」は主体が相手の質問が前提としている考え（の内容）に対して、その考えが妥当ではないという否定判断を示したものだと考えられる。

次の例を見てみよう。

- (9) 「体はどうじゃ」「いいえ、まだはかばかしゅうはござりませぬ」
 （司馬遼太郎『国盗り物語』新潮 100）

(9)で、相手である殿は、病気で伏せっている主体に「体はどうじゃ」と言っている。それに対して、主体は、「いいえ」と言い、続けて「まだはかばかしゅうはござりませぬ」と言っている。「体はどうじゃ」は、肯定、否定という2つの選択肢を持たない質問であり、肯定、否定では答えられないことから、(9)の「いいえ」は、主体が「体はどうじゃ」という相手の質問が「（主体の）体の具合が快復傾向にあるだろう」という相手の考えを前提として発せられたものとして捉え、それに対して、その考えが妥当ではないという否定判断を示したものだと考えられる。

このような分析から、「いいえ」の別義4として〈相手の質問が前提としている考え（の内容）に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉と記述した。

別義4は、別義1から別義3のように、相手の発話の内容そのものに対する応答ではない。しかし、〈否定判断〉を示すという点で、別義1、別義3と共通する。さらに、肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容に対する応答ではないという点で、別義3と類似性が見出せる。

別義4の一部である〈否定判断〉は、相手の質問が前提としている考え（の内容）に対する応答である。相手の質問が前提としている考え（の内容）は、

肯定、否定という2つの選択肢がある質問ではないが、主体は、その考え（の内容）が妥当なものであるか否かを検討し、妥当なものではないという判断をしていると考えられる。一方で、別義3の一部である〈否定判断〉は、相手の考え（を表す発話の内容）に対する応答である。相手の考え（を表す発話の内容）は、肯定、否定という2つの選択肢がある質問ではないが、主体は、その考え（の内容）が妥当なものであるか否かを検討し、妥当なものではないという判断をしていると考えられる。このように、別義4と別義3は、相手の質問が前提としている考え（の内容）に対する応答であるか、相手の考え（を表す発話の内容）に対する応答であるかという点では異なるが、主体が肯定、否定という2つの選択肢を持たない、相手の考え（の内容）を検討し、否定判断をおこなうという点で類似性が見出せる。したがって、別義4は、別義3からメタファーにより拡張したと考えられる。

なお、2節に引用した『新明解国語辞典』（第七版）の文法欄に記述されている「君は昨日は会社にこなかったか」と否定の形式の問いかけを受けた際に、聞き手が「来なかった」ことを予測した上での問いかけととらえれば「はい、来ませんでした」となる。また、聞き手が「来たこと」を予測した上での問いかけだととらえれば「いいえ、来ました」となる。」という否定の形式の問いかけも別義4の〈相手の質問〉に含まれ、「いいえ、来ました」の「いいえ」は、相手の質問が前提としている考え（の内容）に対して否定判断を示したものだ考える。

4.5 多義的別義5：〈相手の説明を促す発話に対して〉〈言葉を発するつもりはないという意味を〉〈示す〉

- (10) 「どうもすみませんでした」加藤はあやまった。その席上で、外山三郎が、加藤のために、あれこれと弁解してくれているのが見えるようだった。「別にあやまることはあるまい。予定より三日ばかり遅れただけのことだ。山だから、そういうことだってある。それに、君の平常の勤務ぶりがいかに立派なものであるかを、影村君が説明してくれた。部長は影村君のはなしを、そのまま重役に伝えたいらしい。（略）」加藤は外山三郎の話の中で、ひとつだけ腑に落ちないものを感じた。影村技師が、加藤のために弁護したということであった。（略）今度の山の遭難事件について、影村が、部長のところまでいって、加藤のかばい立てをしたということは、なんとしても加藤には了解できなかった。「いまにわかるだろう」加藤はひとりごとをいった。「なにがいまにわかるのだ」「いいえ、なんでもありません」

(新田次郎『孤高の人』新潮100)

(10)の場面は会社である。山で遭難し、会社に迷惑をかけた加藤は、上司である外山に謝罪している。それに対して外山は、影村が、主体である加藤の弁護をしたことが効果的だったことを話している。それを聞いた主体は、影村が自分の弁護をしたことについて腑に落ちないものを感じ、(その理由について)「いまにわかるだろう」と言っている。それを聞いた相手である外山は、「なにがいまにわかるのだ」と言い、それに対して主体は「いいえ」と言い、続けて「なんでもありません」と言っており、その後、二人の会話は継続されていない。

(10)の相手の発話は「なにがいまにわかるのだ」という肯定、否定という2つの選択肢を持たない質問であることから、その内容に対して、主体が肯定、否定では答えることはできず、答えとしては、「話したくありません」や「どうして影村さんが弁護してくれたのかわからないのですが、それについて今にわかるだろうと思ったのです」が考えられる。すなわち、(10)の「いいえ」は質問の内容そのものに対して否定判断を示したものだとは考えられない。

(10)の「なにがいまにわかるのだ」という相手の質問は、その前になされた「いまにわかるだろう」という主体の発話の意図を(相手が)理解できなかったことから、(相手が)主体に説明を促したものだといえることができる。主体が、相手の質問をこのように捉え、(10)の「いいえ」で説明に相当する言葉を発するつもりはないという意思を示していると考えれば、続けて「なんでもありません」と言い、その後、二人の会話が継続されていないという状況が説明できるのではないかと考えられる。

次の例を見てみよう。

(11)「あなたには、お子さんがおありでしょう？」と不意に女子学生がいった。「え？」と狼狽した管理人がいった。「あるよ。それがどうしたんだ」
 「妊娠の初期に、精神的なショックが激しいと、良くありませんか。たとえば奇怪なものを見るとか」「それは悪いだろうな。はっきりした事は知らないよ」と管理人は考えこんでいった。「それで?」「いいえ」と女子学生が急いでいった。「なんという事もないけど」「俺に子供がある事がおかしくはないだろう」と疲れて不機嫌な声で管理人はいった。

(大江健三郎『死者の奢り・飼育』新潮100)

(11)の場面は、主体である女子学生のアルバイト先である。主体は、アルバ

イト先の管理人に「あなたには、お子さんがおありでしょう？」と、訊いている。「不意に女子学生がいった」「え？」と狼狽した管理人がいった」という描写から、主体の「あなたには、お子さんがおありでしょう？」という質問が唐突に開始され、管理人が動揺している様子が窺える。そして、主体の2つ目の質問に答えた後、相手である管理人は、「それで？」と言っている。これは、主体がどのような意図でそのような質問を自分にしてきたのか理解できなかったことから、主体に説明を促したものだといえることができる。これに対して、主体は「いいえ」と言い、続けて「なんという事もないけど」と言い、説明に相当する言葉を発してはいない。したがって、(11)の「いいえ」は、主体が、相手の発話を、説明を促す発話として捉えはしたが、促しを受け入れて説明に相当する言葉を発するつもりはないという意味を示したものだと言える。

以上の分析から、「いいえ」の別義5として〈相手の説明を促す発話に対して〉〈言葉を発するつもりはないという意味を〉〈示す〉と記述した。

別義5は、別義1から別義3のように、相手の発話の内容そのものに対する応答ではないという点で別義4と共通する。さらに、別義4が用いられる際の相手の発話は、(8)の「離婚の相手はどんな人だったんだろうね」、(9)の「体はどうじゃ」のように、肯定、否定という2つの選択肢がある質問ではないことから、別義5が用いられる際の相手の発話と同じく、説明を促す発話として捉えることができるという点で類似性が見出せる。ただし、別義4の一部である〈否定判断〉は、相手の説明の促しが前提としている考え（の内容）に対する応答である。この場合、主体は、相手の説明の促しが前提としている考え（の内容）が妥当なものであるか否かを検討し、妥当なものではないという否定判断をしていると考えられる。一方で、別義5の一部である〈言葉を発するつもりはないという意味〉は、相手の説明の促しそのものに対する応答である。この場合、主体は、相手の説明の促しを受け入れて、説明に相当する言葉を発すべきか否かを検討し、発するべきではないという判断をしていると考えられる。

このように、別義5と別義4は、説明に相当する言葉を発するつもりはないという意味を示したものであるか、説明の促しが前提としている考え（の内容）に対して妥当なものではないという否定判断を示したものであるかという点では異なるが、相手の説明を促す発話に対して用いられる応答であり、相手の（説明を促す）発話の内容そのものに対する応答ではないという点で類似性が見出せる。

以上の考察から、別義5は別義4からメタファーにより拡張したと考えた。

4. 6 多義的別義6：〈相手からの配慮や賞賛を表す発話に対して〉〈受け入れる立場にないという意味を〉〈儀礼的に〉〈示す〉

- (12) 料理教室を終え、いつものように顔見知りの主婦たちとカフェに寄ろうと帰り支度をしていると、アシスタントから呼び止められた。「森津さん、先生がちょっとお話ししたいっておっしゃっているんですけど、よろしいですか」「あ、はい」「じゃあ事務所の方をお願いします」教室は、代官山のビルのワンフロアを借り切っている。広さは二十畳ぐらいだ。隣に事務所があり、そこに顔を覗かせると、先生の藤島玲子がソファに座っていた。「どうぞ」にこやかに向かいのソファを勧められ、英利子は緊張しながら腰を下ろした。「ごめんなさいね、突然」「いいえ」この料理教室に通い始めて、まだ一年もたっていない。玲子から、特別に声を掛けられるほど親しいわけでもない。話というのは何だろう。

(唯川恵『瑠璃でもなく、玻璃でもなく』集英社文庫)

(12)の場面は、料理教室である。帰り支度をしていた教室の生徒である森津英利子は、アシスタントに呼び止められ「先生がちょっとお話ししたいっておっしゃっているんですけど」と声を掛けられ、先生である藤島玲子が待つ事務所向かっている。「この料理教室に通い始めて、まだ一年もたっていない。玲子から、特別に声を掛けられるほど親しいわけでもない。話というのは何だろう」という描写から、主体である英利子には、先生から話があると言われた心当たりが全くないことがわかる。そんな主体が緊張しながら事務所のソファに腰を下ろした際に、先生は「ごめんなさいね、突然」と言っている。これは、主体を突然呼び出したことについての謝罪という配慮を表したものと捉えられる。これに対して主体は「いいえ」と言っている。

(12)で、主体は呼び出しに応じている。しかし、呼び出しが突然であることから、主体は、呼び出しについて、相手から謝罪という配慮の発話がなされることを、ある程度想定していたと考えられ、それを受け入れる意思を示してもよい状況にある。ただし、(12)で、主体が「はい」と言うなどして、それを示した場合、(先生である)相手は、その発話を、自分の謝罪という配慮に対して主体がそれを受け入れる意思を示したものと捉えるというよりも、自分から配慮の発話がなされたことについて、主体が当然だという意味を示したものとして捉えるだろうと考えられる。これは、つまり、(12)で、主体が相手の配慮の発話に対して受け入れる意思を示した場合、相手に無礼な印象を与えてしまう可能性が高いということである。したがって、(12)の「いいえ」は、(先生である)相手の謝罪という配慮を表す発話を受け入れながらも、相手に無礼

な印象を与えてしまうことを回避するために、(生徒である)主体が、受け入れられる立場にないという意味を儀礼的に示したものだと言える。

次の例を見てみよう。

(13)岡崎社長「サイバーナビさんの運営する「@engineer」は、登録企業が3万社、登録技術者数が5万人を超える大規模なサイトとして見事に成長されましたね。」

山崎社長「いいえ、とんでもない。まだまだですよ。マングローブさんのインタビューの時に確かお話したと記憶していますが、(略)。」⁷

(http://www.bc-mgnet.com/tunagu/newtunagu_4-2.html)

(13)は、コンサルティングを業務とする株式会社コラボレットの岡崎社長とサイバーナビ株式会社の山崎社長の対談記事の一部である。岡崎社長は、主体である山崎社長に「サイバーナビさんの運営する「@engineer」は、登録企業が3万社、登録技術者数が5万人を超える大規模なサイトとして見事に成長されましたね」と言っている。これは、主体の運営する「@engineer」が、大規模なサイトとして見事に成長したことを高く評価した賞賛を表したものと捉えられる。これに対して、主体は「いいえ」と言い、続けて「とんでもない」などと言い、さらに発話を継続している。

(13)の相手の賞賛は、事実である具体的な数字に基づいたものであるから、主体が「はい」と言うなどして相手の賞賛を受け入れる意思やお礼を示してもよい状況にある。ただし、(13)のような仕事上の対談という場面で、主体が、それを示した場合、相手は、その発話を、自分の賞賛を主体が受け入れたものとして捉えるというよりも、自分から賞賛されたことについて、主体が当然だという意味を示したものとして捉えるだろうと考えられる。これは、つまり、(13)で、主体が相手の賞賛を表す発話に対して受け入れる意思を示した場合、相手に無礼な印象を与えてしまう可能性が高いということである。したがって、(13)の「いいえ」は、相手の賞賛を表す発話を受け入れながらも、相手に無礼な印象を与えてしまうことを回避するために、主体が、受け入れる立場にないという意味を儀礼的に示したものだと言える。

以上の考察から、「いいえ」の別義6として、〈相手の配慮や賞賛を表す発話に対して〉〈受け入れる立場にないという意味を〉〈儀礼的に〉〈示す〉と記述できると考えた。

別義6は、相手の発話の内容そのものに対する応答ではないという点で別義

4、別義5と共通する。さらに、相手の質問が前提としている考えの内容に対する応答ではなく、相手の発話そのものに対する応答だという点で別義5と類似性が見出せる。ただし、別義5の一部である〈言葉を発するつもりはないという意思〉は、主体が、相手の説明を促す発話に対して、促しを受け入れて説明に相当する言葉を発するべきではないという判断の後に示された意味である。これは、つまり、主体が相手の促しを受け入れないという意思を示したものだと言える。一方で、別義6の一部である〈受け入れる立場にないという意思〉は、主体が、相手の配慮や賞賛を表す発話を受け入れながらも、相手に無礼な印象を与えてしまうことを回避するために、受け入れる発話をすべきではないと判断し、受け入れないという意思を示す、すなわち、受け入れる立場にないという意思を儀礼的に示した意味である。これは、つまり、儀礼的ではあるが、主体が相手の配慮や賞賛を受け入れないという意思を示したものだと言える。

このように、別義6と別義5は、相手の配慮や賞賛の発話を受け入れる発話をすべきではないと判断し、受け入れないことを儀礼的に示した意味であるか、相手の説明の促しを受け入れて説明に相当する言葉を発するべきではないという判断し、相手の促しを受け入れないことを示した意味であるかという点では異なるが、相手の発話そのものに対して、それを受け入れないことを示す応答だという点で類似性が見出せるということである。したがって、別義6は、別義5からメタファーにより拡張したと考えられる。

5. まとめ

本節では、まず、現代日本語「いいえ」の6つの多義的別義を再掲し、次に、意味の相互関係を図示する。

本稿で記述した現代日本語「いいえ」の6つの多義的別義は、以下の通りである。

多義的別義1：〈相手の肯定、否定という2つの選択肢がある質問の内容に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉

多義的別義2：〈相手の好意的な行為の申し出（の発話の内容）に対して〉〈断りを〉〈示す〉

多義的別義3：〈相手の考え（を表す発話の内容）に対して〉〈否定判断を〉〈示す〉

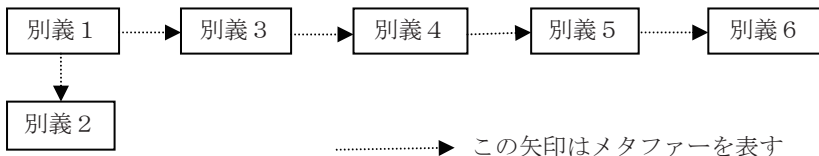
多義的別義4：〈相手の質問が前提としている考え（の内容）に対して〉〈否定

判断を〉〈示す〉

多義的別義5：〈相手の説明を促す発話に対して〉〈言葉を発するつもりはない
という意味を〉〈示す〉

多義的別義6：〈相手の配慮や賞賛を表す発話に対して〉〈受け入れる立場にな
いという意味を〉〈儀礼的に〉〈示す〉

6つの意味の相互関係は、次の図の通りである。



6. おわりに

本稿では、現代日本語の「いいえ」を多義性のある表現として捉え、収集した実例を、相手からの発話の何に対する応答なのかという観点から分析をおこない、「いいえ」の多義的別義として6つの意味を認定し、記述した。さらに、「いいえ」の6つの意味の相互関係を明らかにした。

今後は、多くの先行研究で「いいえ」と共に扱われている「いえ」と「いや」を個別に分析し、精緻な記述をおこない、それぞれの表現の違いを明らかにしたいと考えている。

注

- 1 例文中の下線は引用者によるものである。考察対象の「いいえ」は実線で示し、「いいえ」の前に存在する相手の発話は、荒い点線で示す。また、考察に関わる箇所と判断するものは波線で示す。
- 2 引用例の出典は、例文の後の（ ）内に示す。インターネット上で公開されているウェブページから検索エンジン Google を用いて採集した例文に関しては、（ ）内に URL を記載してある。インターネット上で公開されている中納言を用いて採集した例文に関しては、書名を『 』で括り、発行所名を記載した後に「中納言」と記載してある。なお、『CD-ROM 版 新

潮文庫の100冊』を用いて採集した例文に関しては、書名を『 』で括り、その後に「新潮100」と略記してある。

- 3 例文中の細かい点線は引用者によるものであり、「いいえ」の後に続く同一発話内の同一人物の発話に施している。
- 4 本稿が残している課題は「プロトタイプの意味の認定」と「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」である。
- 5 本稿の多義的別義の記述は、明確に区分されるという印象を与えかねないが、明確に区別できず、連続的である場合もあると考えられる。
- 6 個々の別義の意味、あるいは別義間における共通の意味は〈 〉で括って示す。
- 7 (12)の「岡崎社長」という記述と、ふたりの発話を括った鍵括弧「 」は、引用者によるものである。

参考（引用）文献

- 奥津敬一郎「応答詞『はい』と『いいえ』の機能」『日本語学』八月号、四～十四頁、明治書院、1995年。
- 国広哲弥『意味論の方法』、大修館書店、1982年。
- 田窪行則・金水敏「応答詞・感動詞の談話的機能」、音声文法研究会編『文法と音声』、二百五十七～二百七十九頁、くろしお出版、1997年。
- 富樫純一「否定応答表現「いえ」「いいえ」「いや」」、矢澤真人、他編『現代日本語文法／現象と理論のインタラクション』、二十三～四十六頁、ひつじ書房、2006年。
- 仁田義雄『日本語のモダリティとその周辺』、ひつじ書房、2006年。
- 松村 明編『大辞林』、三省堂、2006年。
- 舩山洋介「多義語分析の方法－多義的別義の認定をめぐる－」『名古屋大学日本語・日本文化論集』一号、三十五～五十七頁、名古屋大学留学生センター、1993年。
- 舩山洋介「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」、山梨正明、他編『認知言語学論考』No.1、二十九～五十八頁、ひつじ書房、2001年。
- 舩山洋介『認知言語学入門』、研究社、2010年。
- 山田忠雄、他編『新明解国語辞典』、三省堂、2012年。

例文出典

CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』

Google 検索エンジン (<http://www.google.co.jp>)

KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」中納言
(<https://chunagon.ninjal.ac.jp>)